

令和7年度 第4回 北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会
議事次第

日時：令和8年1月19日

18：30～20：00

場所：北川村民会館

大ホール

(オンライン併用)

1. 開会
2. 前回内容の確認について
3. 12/20 ワークショップで頂いた御意見について
4. 北川村の新しい学び舎の方向性について
5. その他進捗報告
6. 次回の検討委員会について

【配布資料】

- | | |
|-------|------------------------------|
| 資料1 | 第3回北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会議事録 |
| 資料2 | 12/20 ワークショップで頂いた御意見 |
| 資料3 | 北川村の新しい学び舎の方向性 |
| 参考資料1 | 保育・教育施設の現況（図面） |
| 参考資料2 | 北川村保小中一体化施設整備基本計画 目次・論点 |
| 参考資料3 | 北川村保小中一体化施設整備基本計画 検討スケジュール |

第3回北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会 議事録

| | |
|------|---|
| 開催日時 | 令和7年12月15日(月)18:30～20:15 |
| 開催場所 | 北川村民会館 大ホール(オンライン併用) |
| 出席者 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 委員 岡宗委員、橋本委員長、山崎委員、熊瀬委員、土居委員、百々委員、井津(文)委員、田所委員、稲毛委員、有光委員 ■ アドバイザー 長岡アドバイザー、岩城アドバイザー、野島アドバイザー ■ GPMO 神原、成松、山内 ■ 事務局 濱渦教育次長、堂脇次長補佐、堅田次長補佐、植田主任主事 |
| 議題 | (1)開会 (2)前回内容の確認について (3)北川村の新しい学び舎の在り方について (4)その他進捗報告 (5)次回の検討委員会について |
| 配布資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・資料1 第2回北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会議事録 ・資料2 北川村の新しい学び舎の在り方 ・参考資料1 保育・教育施設の現況(図面) ・参考資料2 北川村保小中一体化施設整備基本計画 目次・論点 ・参考資料3 北川村保小中一体化施設整備基本計画 検討スケジュール |
| 議事経過 | (1)開会 【事務局】 議事次第に沿って会議を進行する旨を説明。なお、井津信廣委員は欠席。 |
| 議事経過 | (2)前回内容の確認について 【事務局】 【資料1】に基づき説明。 委員に対し自身の発言内容の確認と追記・修正があれば申し出るよう依頼。 →特に異論がなかったため、【資料1】を概要としてホームページに掲載する旨報告。 |
| 議事経過 | (3)北川村の新しい学び舎の在り方について 【事務局】 【資料2】に基づき、北川村の新しい学び舎の在り方について説明。 【野島アドバイザー】 具体的な空間イメージについて先進事例を紹介(スライドによる説明)。 (ヒント集) ・教室まわりを考えるヒント |

- 授業を受ける場から学ぶ意欲が沸く場へ
- 常に緊張する場からリフレッシュできる場へ
- 教える場から学ぶ場へ
- ・図書館を考えるヒント
 - 何時でも開かれている場所
 - 思い思いにゆったりと過ごせる場所
 - つながる場所／心を支えるサードプレイス
- ・特別教室・運動施設を考えるヒント
 - 「本物」が体験できる実習空間
 - 教科の枠組みにこだわらない、創造的な活動を促す環境
 - 時間を忘れて、熱中できる創作空間
- ・職員スペースを考えるヒント
 - 同僚性を高める環境
 - リフレッシュ空間
 - ABW(Activity Based Working)
- ・保育・幼児教育を考えるヒント
 - 五感を育む
 - 遊びが選べる／遊びが発見できる
 - 保護者の交流・子育て支援
- ・地域と学校を考えるヒント
 - 場を共有すること
 - 混ざり合うこと
 - 支え合うこと

上記を踏まえ、GPMO進行の下、下記テーマについて意見交換を実施。

(テーマ)

- ・保育園から中学校までの子どもたちが日常的につながって遊び・学べるようにするためには、どんな園舎・校舎が必要か。
- ・村の子どもと村民、他の地域の方々が集い、学び、一緒に活動できるようにするためには、どんな場所・機能が必要か。

【グループ1】岡宗委員、熊瀬委員、土居委員、井津文委員、長岡AD

- 学校内での交流と、地域との交流に焦点を当てて議論。
 - ・できるだけ壁のない校舎、又は可動式の壁で柔軟に対応できるスペース。
 - ・地域との交流を考えるとバリアフリーが必要。
 - ・小中学生が教室に向かう導線上に保育園があり、様子が見える構造。
 - ・逆に、保育園児が小中学生の体育や音楽の授業を自然に見学できる構造。
 - ・共有スペースには、図書館や高齢者のサロンのような場所など、地域住民が自由に出入りできる場所。地域住民と児童生徒が日常的に顔を合わせることで、関係性が深まり、親しみが生まれるのではないか。
 - ・例えば、地域住民が集まれる図書館を中心に空間をつくっていくと、敬老会や運動会

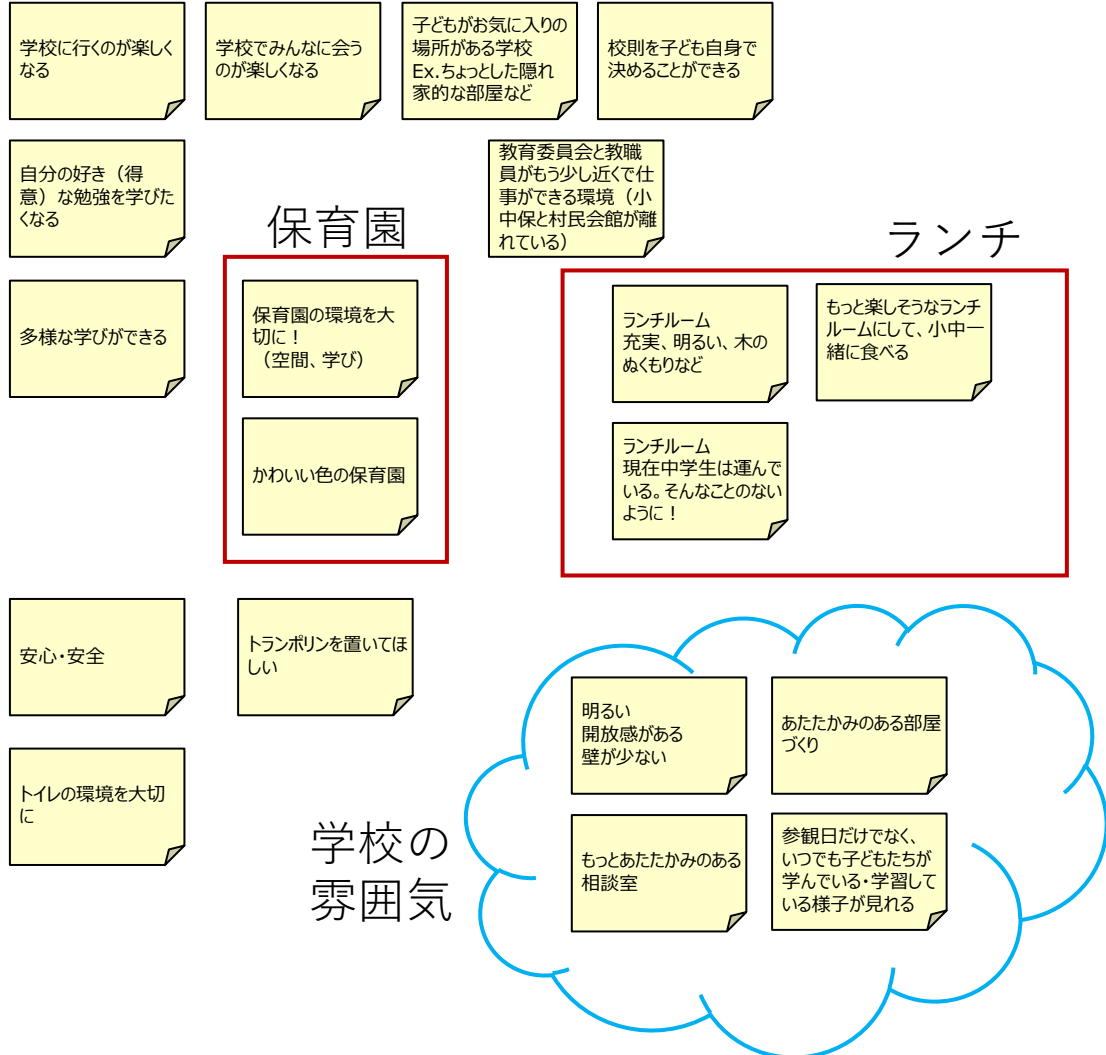
| | |
|-------------|--|
| | <p>の時に自分の子どもがいなくても見に行くなど、地域との交流が進むのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方で、交流拠点については、繋がりたい人も、繋がりがたくない人もいるため、それぞれのニーズに合ったスペースが必要、という意見もあった。 <p>【グループ2】橋本委員、田所委員、稲毛委員、野島AD</p> <ul style="list-style-type: none"> ●保小中連携のためにどんな園舎・校舎が必要か？を中心に議論。 <ul style="list-style-type: none"> ・現在の旧態依然とした造りではなく、保・小・中がコンパクトに、日常的に繋がれるような空間。 ・センターホールを備えた、仕切りの少ないスペースや、日常的に保育所・学校の子もたちの活動が(お互いの)視界に入るオープンなスペース。 ・子どもと村民の交流に活用できる、できれば平日も利用可能な図書館。 ・何より、少人数であっても、子どもたちは多様な性格を持っているので、ハード面に加え、多様性に配慮した教育方法が大事ではないか。 ・ハード面、ソフト面ともに、ストレスのない環境づくりが重要で、例えば、仕切りのないスペースや、時には逃げ込めるようなスペースを備えてはどうか。 <p>【グループ3】山崎委員、百々委員、有光委員、岩城AD</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちが日常的に繋がるにはどんな工夫が必要か？にテーマを絞って議論。 <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢間の交流が行事だけでなく、いろんな場面で作れるよう、例えば、運動場、図書室、プール、給食室など、活動の場を共有し、自由に行き来できる空間が必要。 ・一方で、安全面の配慮として、大人が関わる場合には特定の日時・行事内容を知らせる仕組みを設けるべき、という意見があった。 ・保小中が一体的な教育を推進するためには、子ども・学校と地域との連携が必要不可欠。15年間の子どもの成長をみんなで協力して支える仕組みのほか、子どもが育っている様子(発表会など)を見られる空間が大事。共用できる空間を大事にすれば、自然発生的に新しいことが生まれてくるのではないか。 ・遊具を大きくするなどして、他の地域の子どもも自由に来られる環境づくりとしてはどうか。 |
| <p>議事経過</p> | <p>(4)その他進捗報告</p> <p>【事務局】</p> <p>下記のとおり開催を予定。随時報告したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●村民向け 新しい学び舎づくりワークショップ 12月20日(土)13時から開催予定。 ●保護者向け 保小中一体化に向けた意見交換会 12月19日(金)19時から開催予定。 ●子ども向け 新しい学び舎づくりワークショップ 来年1月19日(月)、20日(火)開催予定で、現在調整中。 |

【未定稿】

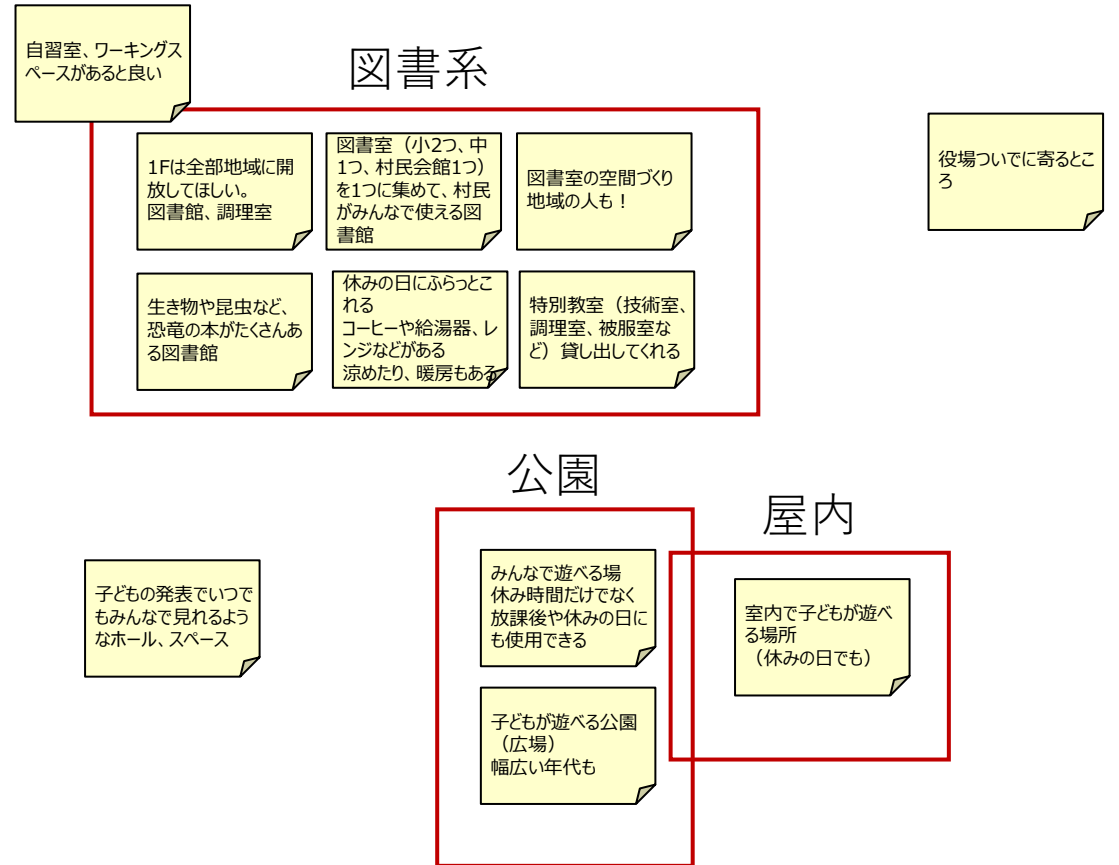
| | |
|------|--|
| 議事経過 | <p>(5)次回の検討委員会について 【事務局】 次回(第4回)は1月19日(月)18時30分～北川村民会館大ホールで開催予定。 第5回は3月4日(水)、予備日は同月18日(水)を予定。なお、最終回(第6回)は4月13日の週に開催予定(詳細は年明けに決定したい。)</p> |
|------|--|

学び場にあったらよいなと思うアイデア

どんな学校・保育園であれば通いたいのか？
通わせたいのか？



楽しい村をつくっていくためにはどんなこと・
どんな場所が必要か？



学び場にあったらよいなと思うアイデア

どんな学校・保育園であれば通いたい？
通わせたい？

教室

木をたくさん使った教室
あたたかみがある環境

床暖房がほしい（教室）

教室の全部の壁をス
クリーンにする（黒板
が必要なし）

教科ごとの教室
（ずっと同じ教室にい
たら飽きるから）

移動式の壁の教室
→全校での授業では
のけられる

教科書をタブレットに
する

ゲームとお菓子を隠せ
るスペース（子どもだ
けが鍵を持っている）

休憩時間

みんなで給食を食べ
るテラス（2階に）
グラウンドが見える

休憩スペース
ヨギボーがある

芝生のグラウンドが欲
しい

入り口の扉があるトイ
レ

体育館にエアコン
快適に過ごせるから

避難通路が欲しい

教室から体育館へ行
ける通路

エレベーターをつくる
移動しやすい（荷物
を持つときに）

自転車置き場を広く
してほしい

トイレを全部洋式に
する

快適に過ごす

楽しい村をつくっていくためにはどんなこと・
どんな場所が必要か？

大きい図書館
本がたくさんある
村民みんなが使える

図書館とカフェを合体
させる

みんなが遊べる公園
遊具がある

学び場にあったらよいなと思うアイデア

どんな学校・保育園であれば通いたいのか？
通わせたいのか？

休み時間に保育園
児とも遊べる

職員室の統合
(一体化についての
話ができる)

登校しにくい子ども過
しやすい ↓

リラックスして話せる相
談室 (今は雰囲気
が固い)

静かに過ごしたい子の
ための小さなスペース

休憩できる
ソファを保健室に

災害時、安心できる
避難所

建物が古く、暗くな
った気がする

耐震強化

保小中の連携

窓が大きく
自然光を

座り心地の良い椅子

段差を少なく

桜並木

色んな子どもが
それぞれにリラックスして
使えるスペース

四角く区切られない
教室
多用途に使える

丸テーブルを多用

少人数だからこそ、大
きな1つの空間で一
緒に (多学年)

使っていない教室があ
るのがあるのはもった
いない気がする

各教室の利用の再
考・効率化

ランチはみんなで楽しく

ランチ (給食室) の
机・椅子等の雰囲気
作り

食事をみんなで食べ
る回数が減ったのは
寂しい

給食・ランチは採光を
良くした部屋で、みん
なで (小学生、中学
生一緒に)

ランチはみんなで

快適に生活しやすく

子どもたちが集ま
って学習しやすい
教室

他校との交流も活発

モネ以外の遠足

楽しい村をつくっていくためにはどんなこと・
どんな場所が必要か？

村の色々な施設を活
用する

現状の読み聞かせは
大人が学校へ来てる
が、子どもが保健セン
ターやゆずの花へ出
張読み聞かせを希望

子どもがチャレンジで
きる環境

遊ぶ場所

村民が集まれる場所

子どもも大人も行ける
公園

気軽に集まれる憩い
のスペース

広く充実した図書館

運動会
村内統一で実施

カフェスペース併設
住民も使える

雨の日に遊べるス
ペース

住民も使える
交流できるスペースに

綺麗で安全な遊具

地域の人が面倒を見
てくれる学校

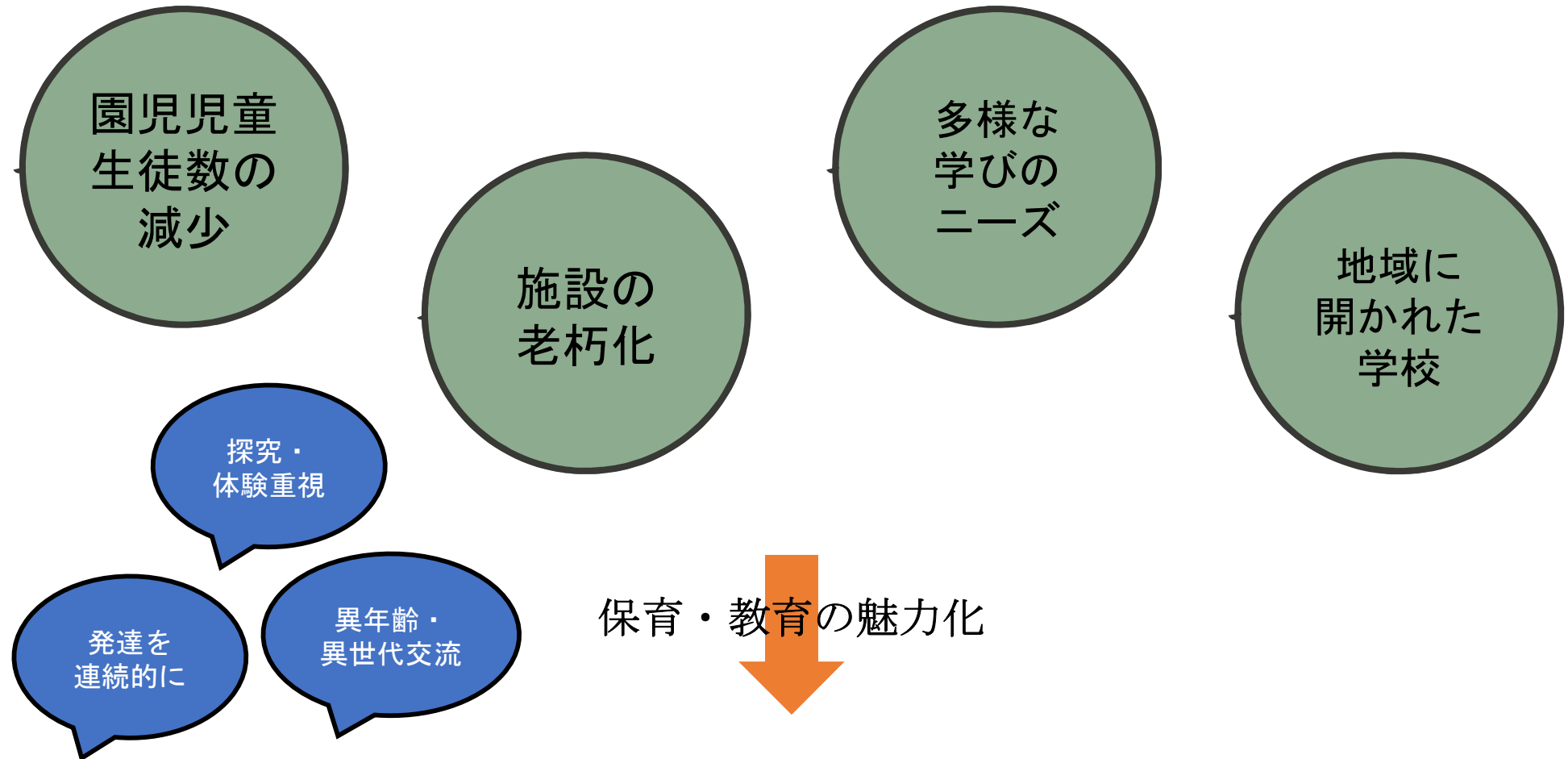
北川村の新しい学び舎の方向性

令和8年1月19日

第4回北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会

これまでの振り返り

教育の基本姿勢



新しい時代の学びに対応した保小中一体化を進めつつ、地域の方々や他地域の学校・子どもたちとの交流・関わり合いができるような環境づくりを目指してはどうか。

子育て・教育環境の実現目標

子育て・教育環境の実現目標

新しい時代の学びに対応した保小中一体化を進めつつ、地域の方々や他地域の学校・子どもたちとの交流・関わり合いができるような環境づくり



① 0～15歳の保小中の子どもたちが混ざり合う一体的な教育環境

② 村民、村外の子ども、村に縁ある人も集い、学び合う子育て・教育環境

① 保小中が混ざり合う環境

主な意見

- 保育園から中学校までの子どもたちが日常的につながって遊び・学べるようにするためには、どんな園舎・校舎が必要でしょうか。

【立地】

- ・ 保小中の物理的な距離を縮める。
- ・ 小中学生が学校に行くまでの動線上に保育所があると、お互いに様子が分かるのではないか。
- ・ 学校と教育委員会がもう少し近くで仕事ができるとよいのではないか。

【職員室】

- ・ (小中の) 職員室の一体化が不可欠。
- ・ (小中の) 教員らがいつでも会議ができるスペースがあったらよい。

① 保小中が混ざり合う環境

主な意見

【交流できる教室・設備】

- 保小中お互いの様子が見えるよう、ガラス等でオープンな空間にする
とよい。
- 仕切り（壁、ドア等）が少ない活動スペースがよい。
- 可動式の壁が備わった教室がよい。
- 保小中みんなが集まれる施設・スペース（多目的教室、運動場、給食
室、図書室、菜園等）があるとよい。
- 保小中みんなで給食を食べるランチルームやテラスが欲しい。
- 丸テーブルを置くなどすれば、交流・連携が進むのではないか。

【繋がらない場所】

- （交流スペースだけでなく）繋がらない場所、個でもじっくり・ゆっ
くりできる場所が必要ではないか。
- 例えば、教室と教室の間に、繋がれる場所と繋がらない場所を作ると
よいのではないか。

② 地域の人たちも集える環境

主な意見

- 村の子どもと村民、他の地域の方々が集い、学び、一緒に活動できるようにするためには、どんな場所・機能が必要でしょうか。

【子どもたちの成長を近くで見られる施設】

- ・（参観日だけでなく）日常的に子どもたちが学び・遊んでいる様子が見られるようになるとうい。
- ・ 子どもたちの発表を、地域の人たちが見られるようなホールがあるとよい。
- ・ 今の多目的ホールは学童と共用しており、不便。
- ・ （発表の場として）音響設備が整ったホールがあると地域の人たちも使える。

② 地域の人たちも集える環境

主な意見

【地域の人たちも集い、学べる施設・スペース】

- 図書室（小学校2つ、中学校1つ、村民会館1つ）を1つにまとめて、子どもも、村民も使えるような図書館にしてほしい。
- 図書館と憩いのスペース（サロン、カフェ等）を合体させて、（子どもだけでなく）村民も使えるようにしたらどうか。
- （図書館だけでなく）調理室、被服室、技術室等の教室を地域に開放してほしい。
- 地域の子どものも、大人も集い、遊べる公園があるとよい。
- 雨の日でも、室内で遊べるスペースがあるとよい。

【共用するに当たって考慮すべき点】

- ゆずの花など、村内の他の施設をうまく活用すること。
- 共用することによって、空いているかどうかの確認が煩雑となり、学校の授業・活動に支障が生じないようにすること。

③ ①と②を支える環境

主な意見

【学ぶ意欲が湧いてくる場所】

- 教室の壁をスクリーンにしてはどうか。
- 教科専用の教室があると勉強しやすい。
- 自習室や協働のワークスペースがあるとよい。

【快適で、安全・安心な居場所】

- トイレ：全て洋式化してほしい。
- （学び場だけでなく）ソファを置くなどして、子どもたちも休憩ができるスペースが欲しい。
- それぞれの子どもがお気に入りの場所がある学校がよい。例えば、静かに過ごせる場所や、隠れ家的な場所があってもよいのではないか。
- 木をたくさん使った教室・ランチルームだと、もっと温かみを感じられるのではないか。
- （地域開放を考えると）段差を少なくするなど、バリアフリーに配慮した造りとするのが望ましい。

新しい学び舎の方向性

コンセプト・重視すべきポイント

Point1

保小中の子どもたちが混ざり合う環境

- 保小中を同じ敷地に設けること。
- 保小中お互いの様子が見えるような施設とすること。
- 可動式間仕切り壁等により、学年や活動内容に応じて空間を柔軟に組み替えられる、一体空間型の教室とすること。
- 多目的ホール、ランチルーム、図書室、運動場など、保小中みんなが集い、協働できる施設を設けること。
- 職員室の一体化など、職員同士の連携・情報共有が図られる施設とすること。
- 自由に繋がれる場所と別に、繋がらない場所の設置を検討すること。



新しい学び舎の方向性

コンセプト・重視すべきポイント

Point2

地域の人たちが集い、学び合う環境

- ホールなど、子どもたちの成長の姿を地域の人たちが見られる施設を設けること。
- 学校・村の図書室をまとめ、子どもも、大人も学べる図書スペースを設けること。
- 図書スペースのみならず、地域の人たちが集い、交流できるスペースや、子どもたちが遊べるスペースを複合化すること。
- 特別教室の地域開放については、学校の授業・活動に支障が生じない形で検討すること。



新しい学び舎の方向性

コンセプト・重視すべきポイント

Point3 学ぶ意欲が湧いてくる場所

- 多様な学び（教科学習、探究学習など）に対応できるような空間づくりとすること。
- ICT環境に対応した教室の造りとすること。

Point4 快適で、安全・安心な居場所

- テーブルや椅子など、子ども・職員・村民がリラックスできる家具の配置を検討すること。
- 明るく、木のぬくもりを感じられる学び舎とすること。

0 歳～100 歳 みんなが集い、学び、みんなでつくる 『学びのひろば・ゆずのたね』

保育所、学校の一体化・充実に併せて、
全ての村民、村外の関わりのある人たちも活用できる機能を充実させ、
村の子ども、教職員、保護者・村民らが混ざり合い、共に考え、村をつくっていく
共創空間（＝『学びのひろば・ゆずのたね』）を軸に整備してはどうか。

配置計画 素案

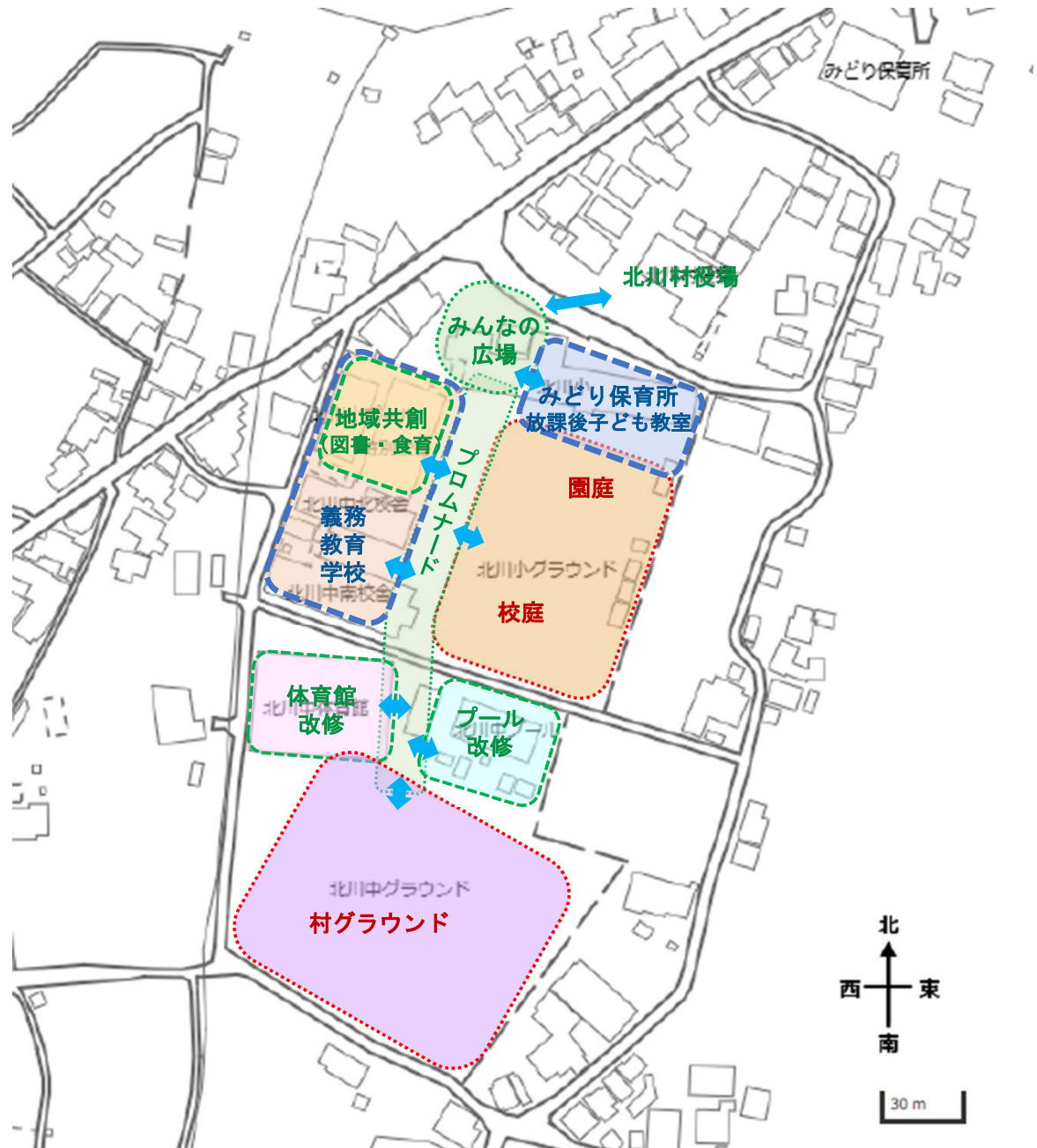
配置計画 素案の考え方

- ・村民が気軽に訪れ、交流することができる外部空間「広場とプロムナード(※1)」をつくる
- ・広場とプロムナードに対して義務教育学校やみどり保育所、体育館、校庭等の施設が顔を出す
- ・保育所・放課後子ども教室は小学校校舎の長寿命化改修(※2)、義務教育学校は中学校校舎の長寿命化改修+増築(※2)で総合的に施設環境を整える
- ・義務教育学校には常に村民に開かれた地域共創空間を設ける
- ・体育館は環境改善の改修を行う
- ・プールは現中学校プールに統合し、環境改善の改修を行う
- ・中学校校庭は村のグラウンドとして体育館とプールとともに村民のスポーツ活動・健康増進拠点とする
- ・安全対策はプロムナードに施設を開き、十分な視認性を確保することを基本として、人と技術を効果的に組み合わせて行う

(※1) プロムナード：遊歩道のこと。

人が安全に行き交い、集い、憩える空間。

(※2) 国庫補助金などの条件が整えば、改築することも考えられる。



出典：国土地理院地図を基に作成

本日のテーマ

本日議論いただきたいこと

- 以上の4つのポイントについて、更に充実させるために付け加えるべき点は何かないでしょうか。
- 配置計画素案をご覧になって、何か気付いた点や感じた点はないでしょうか。

上記の点について、各グループごとに話し合い、発表をお願いします。